



mari
hokan -
keikaku



…ふう…



「第零話
終わった世界の
向こう側。」

それとも何がわ
No5:

向か正当な理やねあわこ
じもさうのれわ

そろそろ
反骨の身の一つへら

聞かせてくれても
いいと思うのだが……

我々の最高機密を
勝手に持ち出したこと
対して

んん!!



ハハハハハ
アレ、アヨニのなんだから



エライに乗れ方で
言つても、我々にどうは
何も変わらんのだよ



皆、戦うこと放棄し
エリによって抹殺された
者たちだ。お互に
体を慰めあうには
格好の相手だらう

当分の間、その虚栄心
をうそにかなわんぞ
仲良くなれどもなよー

ムハサナヘ
入れちや

わあー何外
スゴイニ

ああー

なんなどニ

ニヤ?

ああー

うー





おげさまえた
みたーー!!

んち大禁に
これから何日も

肉體貪られ
続けろんだアマニー...







はあ、ちう
腹内じこすれ





は
は
は

は
は
は



「お前、この前のマツヨリ
強くなっちゃうわ。」

汎用ヒート型決戦兵器
エヴァンゲリオンヒューラ機
(24)

「あれじゃ…
アリヤ!!」

今までアキラシを
絶頂に導いてくれる人
だらうね…

～エヴァンゲリオン 新劇場版“破”～

(注)…この本を手に取った後、やる方で、よもや未見の方はいら、(やらないと思ひます)…もいら、(れば)DVD発売までここから先は絶対に読まないで下さい…!!

“序”のエンディングの後に流された“破”的予告編…そこには謎のキャラ、“5号機”と銘打たれた謎のエヴァ。とにかく、1分にも満たない予告編の中にTVシリーズでは、まるで観たことない、映像が次から次へと映し出され、それらを頭の中で整理する余裕もないまま、劇場の明かりが灯り、観客からはじよめきの声があがる。おそらくすべての劇場で、上映された回数だけ同じ光景が繰り返されたであろうことは想像に難くない。

一体“破”はどんな物語なの?…“序”はTVシリーズと同じ構成であったが、これが何は全く違う物語になるのか?…とう思われてしまうほど予告編は衝撃的だった。

そして“破”的公開…。細かいホテルの運営はあらその、想像(いたづら)“全く違う物語”ではなく、話の流れそのものはTVシリーズをそれほど逸脱したものではない。 (しかし)…観るうちに気付いたのは“向かが遠”と言う違和感…明らかに私の知る“エヴァ”とは違う“向か”…。最初にそれに気付いたのは、5号機で頭皮と登場したアスカの姿を見た時。シンジ達の前に仁王立ち、お決まりのあのセリフ…初登場時を行進させせるシーン…(しかし)…シンジに突っ込む姿にしても、何だか見下していると言つよりは、ボケたお笑い美人に突っ込む時のような親しみを感じさせろ…。その後のシーンを見ても、高飛車な態度こそそのままだが、あの、人を拒絶し、エヴァに乗ることじて自分の存在価値を見出せなか、たTVシリーズのアスカとは違う…。シンジのベッドに潜り込む姿を見ても、少なからず今回のアスカは人の温もりを求めているように思える。そう…ここにいるのは明らかに私の知るアスカではない“もう一人のアスカ”だ…(しかし)…このアスカの変化は、私にとっても…きっと他のアシの方達にとっても受け入れ難いものだけ決してなく、むろますますアシになつたと言う方も多いただろうと思う。…だが、それ以上に変化を見せたのはレイの方…(!) シンジの為に自らサブライズパーティを開こうと奔走したり、手料理を作ろうとして指をケガしたり…もはや普通の十代の少女と変わらないほどに心の成長を遂げている。これにはアインの誰もが驚いたと思うのだけれど、このレイの変化こそが、今回の新劇場版のものの大きな縦軸となる、といふ。

ゼルエルに特攻するレイ。ヤニス作戦の際、「あなたは私が守るもの」とシンジに向つたセリフ。あれは“そう言う命令だ”と言ふ意味以外の何者でもなかつた。(しかし)…今度こん本当に「碇ウソを二度エヴァに乗せないために…!」

レイは使徒に向かっていく…。そして、そんなレイを救つた後、再びエヴァに乗り決意をするシンジ…この時だけ嫌がついたエヴァの力をシンジは初めて自己欲する…ついに自ら動き始めたシンジ。“世界なんかどうでもいい、ボクは綾波を助けたいだけだ!”…そこには、生きる意味を失つたなどたれていた(旧)劇場版のシンジはもういない…。いつの間にか涙線がゆろくなつて、まるで自分に気がついた…。

そして物語はTVシリーズ25.26話、(旧)劇場版の直前まで辿り着き、ここからいよいよ

本当に我々の知らないエヴァが始まる。突如出現したカザル、そして“マーガレット”
覚醒する初号機。この“終わりゆく世界”の中で 今度こそシンジは希望の光をつかむ
ことが出来るのだろうか。

～マリ～

宣伝用ポスターが発表された直後からファンの興味を一身に集めひたであろう
“謎のメガネ娘” “メガネで巨乳で絶対領域”… 男性ファンに媚びていることを
とられぬわなないほどに詰め込まれた記号”。反則技ともこれるこのデザインは、劇場版と
言う短いスペインでファンに“マリ”と言うキャラクターを強く印象づけるための措置なのじよう。
案の定と言いましょうか… パラシュートでの降下に失敗、そのままシンジに覆い被さり、
シンジの顔に“オッパイムキ”… そしてチラリと現れかせる絶対領域”と言う。“お約束”か
シーンの連続。そして、顔を見たまま、先に目に飛び込んで来るあの“赤テグメガネ”
… “メガネ=地味なキャラ”と言うイメージも今は昔。一昔前は“ラムネ&40”的
ココアのように“メガネを外すと美女に変身”と言うコンセプトがほとんどでしたが、
今ではもう、メガネを外すと国民権を得たよう… スタッフの方々との辺はよく分かって
いる。ぐらぐらだけ激しい戦いを繰り広げようと、ヘルメットを碎けようと決して
メガネ外れることはありません(笑)。かく言う私もメガネ好き。マリを見た瞬間、
“メガネキラー！”と心の中叫んでました。

さて… このマリと言うキャラクター… あの独特なアラクースーツ、そして彼女が
塔乗ることになるであろう、あの異形の姿をしたエヴァ(仮設)5号機… 公開前に
発表された情報はこれくらい。どんな活躍をするのだけ想像に頼る(外な)た
のですが… 正直、劇場版の彼女の姿は、いい意味で私の想像を壊して
ました。大体の予想を覆し、幕開けと同時に使徒との激しい戦い。そして5号機は
使徒を道連れに爆破四散… あの、話題で持ちきりとなつた5号機、そして
フィギュアマークからこもって立体化したあの巨型アラクースーツは、わずか5分
足らずでお役御免… そして、ライマックスでは新たなアラクースーツで、なんとアスカの
代わりに式号機で登場… (!)と出番は少な、ながらいろいろな意味でファンに強烈な印象を
与えてくれました。ただ…私が観ていて印象に残ったのは、ラスト近くエヴァに乗ることを拒絶
したシンジを再び戦場に導いたのが、ミサトでも加持じもなく、彼女だった…と言う場面は興味
深いですね。エヴァに乗ることを当然の義務のように受け入れていらぐり。彼女は今後、シンジ達と
どう関わっていくか…楽しみな所です。

(注)…マシカに關しては、そく資料がなかなかなく、ほんと想像で描いています。
イギリス出身の彼女になやドドツビ建造された式号機の存在や性能を知っているのか?とか
新アラクースーツのカラーなど… 今後、続編やDVD、ムックなどの発売により、今回のマシカとの
相違点が出来るとと思ひますね。どうかご了承下さい。

発行 太陽出版株式会社

発行日 09年8月30日

著 神無月かんな (武装女神)

busou-megami

